



## 新年にあたり

農林水産部参事兼所長 中村 紘夫

いよいよ新たな世紀、21世紀の時代に入りました。

皆様、明けましておめでとうございます。

さて、昨年末、国勢調査による「人口」が発表になりました。これによると南会津地方の平成12年の総人口は35,002名で、平成7年に比べて1,539名減少しました。依然として過疎化が続いています。

また、農林業センサスによる「耕作放棄地面積」も発表になり、当地方の面積は約573haで、平成7年に比べて約7ha増加しました。これは当地方の全耕地の約14%を占めており、特に畑の遊休化が著しくなっています。しかし、郡内7町村のうち、4町村では5年前より減少しており、耕作放棄地の解消にむけた成果が徐々に表れています。

今日の当地方の農林業は、国、県と同様に、担い手の減少や高齢化の進行、農林産物の価格の低迷、消費者ニーズの多様化、食料の安全性への関心の高

まり等、大きな変革期にあります。

一方、農林業は食料の安定供給と活力ある地域社会の維持、自然環境や景観の保全等、地域の発展にとって重要な役割を果たしており、当地方の進展を図る上でも農林業と農山村の発展が不可欠であります。

このため県といたしましては、このような動きに対応して「新たな農業・農村振興計画」や「福島県第5次土地改良長期計画」及びこれらの南会津地方版の策定をすすめております。

今後は、これらの計画に基づき、担い手の育成、生産基盤や生活環境の整備、中山間地域の活性化、グリーン・ツーリズムの推進等を一層進めるための諸施策を積極的に講じ、生産者が意欲と誇りを持って取り組み、当地方の農林業が将来にわたり、基幹産業として持続的に発展するよう努めて参ります。

本年もよろしくご指導、ご協力をお願いいたします。

### 今月のトピック



木材の利用を学びました

### 林業教室（基礎講座）を開催しました

12月11日、「広葉樹林施業について」をテーマに田島町・南郷村で林業教室（基礎講座・第4回）を開催しました。

午前中は、田島町中荒井のアカマツと広葉樹の混交林を会場に、菌根菌（ホンシメジ）の発生環境について農林事務所職員より講義と実習を行いました。午後からは、新雪の多く残る南郷村界集落のブナ・ミズナラ林で、広葉樹の施業地について現地研修を行いました。

その後、田島町糸沢にある広野林平氏（県林業普及指導協力員）の工房“林香の里”を訪問し、ケヤキ・ネズコ・ミズキさらにはキリを使った花瓶等、主に広葉樹を利用した木工品の作成技術について指導を受けました。その作品の素晴らしさに教室生は一様に感銘を受け、木材を利用した木工について理解を深め合いました。

（森林林業部）

### 県外から3名の新規農業参入希望者！！

～南郷村新規農業参入推進協議会が開催される～

10月26日、南郷村役場において、村新規農業参入推進事業実施要領に基づく推進協議会が開催され、本名村長を座長に、新規就農希望者3名に対する要件審査、受入の適否等についての協議がなされました。年齢は27才から34才、経歴は様々ですが、南郷村でトマト栽培をぜひ行ってみたいといういずれも意欲ある県外出身者ばかり。

審査の結果、3名全員の受入を適当と認め、村、村議会、農業委員会、JA、南郷トマト生産組合がそれぞれの機能を分担し、連携を図りながら支援して行くこととなりました。

この3名の方々は、今年からトマト農家で栽培技術の習得に努め、平成14年から本格的な栽培に取り組む予定になっています。

（農業普及部）



## 南会津にグリーン・ツーリズムコーディネーターが5人誕生!

12月21日、「県グリーン・ツーリズムコーディネーター育成塾」では、コーディネーターの役割から企画書の作成、実践までのノウハウを2年間(計11回の講義)にわたって学んだ第1期生25人に修了証書を交付しました。当管内からは、渡部誠さん(田島町)、木下武司さん(舘岩村)、菅家伸一さん、平野みのりさん(伊南村)、鈴木サナエさん(只見町)の5人が育成塾を無事修了、今後、地域グリーン・ツーリズムのまとめ役であるコーディネーターとして活躍することとなります。

平成12年4月より当管内から参加している第2期生4名も、コーディネーターを目指して勉強しているところです。

コーディネーター育成塾では、平成13年度にも第3期生を募集する予定です。



育成塾修了おめでとうございます

(地域農林企画室)

## 「山の博物館」開催される

12月6日、南郷一小4年生が春から活動してきた“わくわく探検隊”の成果を展示する「山の博物館」が開催されました。この博物館には、同小学校水辺の昆虫から山の木の葉の調査、炭焼き体験、山の絵画、木の実を使ったおもちゃの各コーナーが並び、生徒たちからそれぞれに説明がありました。また、農林事務所が参加し、6月に同村高清水自然公園で開催された“森林教室”の様子なども展示されていて、訪れた人たちは、生徒の説明に熱心に耳を傾け、特に木の実のおもちゃ作りコーナーでは、大人が子供達から楽しく指導を受ける様子が見られました。

同小では、このような活動を毎年続けて、生徒たちに体験を通して自然を学んでもらうとのことです。

(森林林業部)

## 特集!

## MG(マネージメント・ゲーム)で経営感覚を磨く

12月6日~7日の2日間、南郷開発総合センターにおいて、各町村の農業経営改善支援センターと南会津地域農業改良普及センターの共催でMG研修を開催しました。

参加者は、認定農業者、南郷トマト研究会、南会津農業青年クラブ員らの若手20人で、講師には会津若松市の原木昇税理士をお願いしました。

原木先生から「現在の足腰の強い会社は、世の中の動きを的確に掴み、計数に強い会社で、農業もその視点で経営することが大切。ゲームをとおして採算が採れるかどうか勉強してほしい」との話があり、研修にはいりました。

ゲームでは、自分の会社(農園)を設立し、ルールに従い生産・販売等を行い、決算、原価計算、損益計算書、貸借対照表を作り経営を分析します。

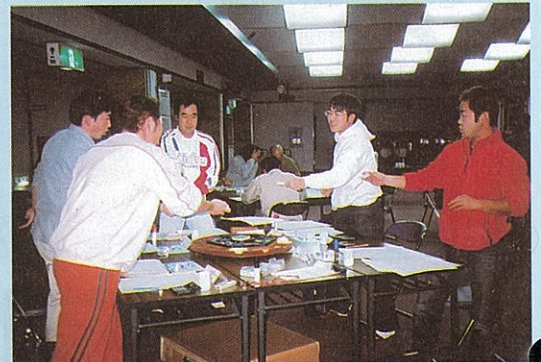
どのグループでも、他社の経営状況を掴んで駆け引きする「競り」の状況は、「本場の競り」と同様白熱し、気合いが入りました。2回、3回とゲームを進め、売り上げ順にグループを再編成していきました。

機械等設備が多い会社、在庫を抱え倒産寸前の会社、雇用者に賃金が払えず赤字の会社、研究開発に力を入れ売り上げが順調な会社等、様々な結果がでました。

「売る」、「材料購入」等の意志決定を瞬時に記帳、グループ内の他の経営を把握し販売額を上げる等、農業経営者としての感覚を磨くゲームとあって、休憩時間も惜しんでの研修でした。

この研修で、農業者としての経営感覚を身体で体得した参加者からは、「もう何回か開催してほしい」「自分自身もレベルアップしたい」との感想も聞かれ、今後の農業経営に生かされるものと思います。

(農業普及部)



白熱したMG研修

## MGとは

マネージメント・ゲームの頭文字で、会社の職員全員に経営者的な意識をもってほしいという社員教育の手法としてソニーの西順一郎氏により開発された経営シミュレーションです。

参加者数人でグループをつくり、ひとりひとりが会社を起し必要な材料を購入し、商品を生産、販売します。記帳から決算までシミュレーションし財務諸表をつくり、自分の経営を評価します。さらに、販売成績毎にグループを編成しルールに従ってゲームを進め、利益をあげるための経営戦略を勉強するものです。



## 「今年も会いにきました」ヒメサユリ群生地

南郷村農林課

南郷村界地区から国道401号線を昭和村方面に向かい、標識に従って林道鳥越鳥居峠線を4kmほど進むと、そこは高清水自然公園です。

高清水自然公園はその名のとおり高清水という豊かな湧水と、湿原が点在する緑豊かな公園で、林野庁の「水源の森百選」にも選ばれ、地酒「花泉」の水源にもなっています。園内は自然の地形を活かしたままアスレチックやキャンプ場が整備されており、自然と触れ合う場所として、また、アウトドアを楽しむフィールドとして夏休みの時期など多くの人が訪れます。

しかし、林道に交通整理員を置かなければならない程にぎわうのは、やはりヒメサユリの開花時期です。高清水自然公園のヒメサユリ群生地は、4haいちめん約50万本のヒメサユリが自生しており、開花時期の6月中旬から7月上旬には毎年ヒメサユリ祭が開催され、多くの愛好家が訪れます。尾瀬のニッコウキスゲのスケールには遠く及びませんが、林道からナラ林を分け入ると、トンネルを出たように急に視界が広がり、いちめんのピンクの世界に瞬間移動する感覚はここならではのものです。なだらかなすり鉢状の草原全体が淡い桃色に染まり、風にそよぐ様はとても可憐です。ここを訪れる方の多くが翌年もまた訪れるということは、やはり群生地自体の魅力を物語っており、「今年もまた会いに来ました。」などという台詞を交わすのが不思議と気恥ずかしくない花です。

ヒメサユリは別名オトメユリとも呼び、福島・新潟・山形県の深山に自生している日本固有のユリ科の植物で、南郷村ではこの群生地一帯の山林に自生しているほか、量産に成功した月田農園があります。農園からは昭和56年に松平知事・秩父宮妃を介



し、英国王室へも献上されています。

ヒメサユリ群生地を一般に公開するにあたり、保護対策も同時に進めています。この群生地の特徴は、草原全体に非常に密生していることで、このようにまとまっているのは、昔、ここの地区の「かや」採取所だったためです。ウィルス等に弱いヒメサユリにとって、毎年火入れを行ってもらえる場所は、絶好の成育条件となったものです。現在でもそれを続け、毎年5月に火入れを行っています。また、林道の整備もそのひとつで、訪れる方が、ぬかるんだりせずに快適に群生地を散策できることはもとより、植物を踏んでしまうことを防止し、また、どうしても人間が持ち込んでしまう外来植物・球根に取り付くウィルス等を少しでも食い止めることができればと考え整備されました。群生地も、消毒液のじゅうたんを踏まないと入れないように対策がなされています。

皆さんも、是非、来年からはヒメサユリに「会い」に来て下さい。

### お知らせ

#### 農林事務所移転！田島合庁4階に集まりました。

田島合同庁舎大規模改修工事とともなって、12月18日から農林事務所が田島合庁の4階に移りました。今までは、2階に農業振興部、農業普及部（普及センター）、3階に次長室、農村整備部、地域農林企画室が

ありましたが、すべて4階に移動し、ひとつのフロアーにまとまりました。移転して間もなく、工事も進行中で煩雑ではありますが、みなさんが訪れやすい農林事務所にしていきますのでお気軽にお立ち寄り下さい。

なお、電話番号は今までどおりですが、FAX番号が一部変わりましたのでお知らせいたします。





巳年生まれの農林事務所職員5名に今年の抱負などをお聞きしました。

地図を眺めながら各々の地域の歴史景観に思いを巡らすのが好きな一人であるが、この南会津地方に貢献でき21世紀の新しい地図に残る仕事を担いたい。



企画部  
細井 弘子

あけましておめでとうございます。還暦を迎え長い勤めとなり、多くの皆様のご指導ご鞭撻のおかげと感謝でいっぱいです。また新世紀を迎え、皆さん共々良い年でありますようお願いしております。

森林林業部  
八代 雄二



昨年は、県職員になってから最も短く感じられた1年間でありました。巳年生まれは金運に困らないといわれておりますが、せめて心だけは豊かな1年にしたいものです。



農村整備部  
吉津 澄人



森林林業部  
大竹 国義

明けましておめでとうございます。早くも3度目の年男となりました。彼方からKARIBUと呼ぶ声がかきこえてくるので、今年是非かの地を訪ねてみたいと思っております。



森林林業部  
伊藤 透

今年は子供が誕生するため、私と同じ干支となります。自分も歳をとったと思い、感慨にふけると共に、一家の柱として頑張っていこうと思っております。



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
① 農業機械研修：トラクタ保守点検整備	2月7日～8日	農業短期大学校
② 農産加工研修：フルーツゼリー加工	2月8日	農業短期大学校
③ 農業機械研修：ミニバックホウ操作基本	2月14日～15日	農業短期大学校
④ 農業機械研修：トラクタ基本運転	2月19日～22日	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 TEL 0241-62-5866  
南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

問い合わせ

あて先 〒967-0004  
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1  
南会津農林事務所 地域農林企画室  
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256  
E-mail m-nourin@akina.ne.jp  
ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>  
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真  
会津たじま歩くスキー大会（田島町）  
2月11日開催



この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。